

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
こども発達・子育て支援センター わくわくかん		令和8年2月25日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		基準以上の広いスペースを確保し、利用児が快適にのびのびと過ごしたり活動できる環境が整えられています。また、広い園庭や芝生広場、開放的なホールや指導訓練室を確保しています。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		配置基準は管理者、児童発達支援管理責任者、利用児10人に対し、2人の職員配置に加え、児童指導員等加配職員、専門的支援体制をとっており、保育士、児童指導員(社会福祉士)を配置し、配置基準よりも多くの職員配置を行っています。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		事業所内は全て、段差がない構造になっています。部屋の扉の横にどんな部屋か視覚にわかりやすく絵で表示しており、活動やその日の流れが分かりやすいようにタイムスケジュールを張り、見通しが持てるよう配慮しています。トランポリンに上がる階段も柔らかい高ウレタン素材の階段にし、遊具の周りにはマットを敷く、角や鉄の棒にはガードをする等安全面にも配慮を行っています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		利用児が使用した時間後には毎日清掃を行い、整理整頓をしています。遊具やおもちゃ等も毎日アルコールで消毒を行い、室内にも消毒用アルコールや除菌シートを設置し、常に清潔を保たれるよう配慮しています。子どもたちの活動に合わせた部屋が5つあり、さらにしっかり体を動かすことができる広い遊戯室もあります。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		自由に移動し、好きな場所を使えるようになっています。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		職員と情報共有しながらPDCAサイクルに参画しており、支援にあたっています。	足りない面もあると思うので、今後もPCDAサイクルを意識し、しっかり職員同士参画して取り組んでいきたいと考えております。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	保護者向けの評価を実施・活用し、保護者の方からのご意見やご意向を把握し、意向等を踏まえ、支援の改善、質の向上、業務改善につなげていけるよう努めています。	今後も、保護者の意向等踏まえ、より一層業務の改善、支援力の向上に努めてまいります。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		終礼や放デイ会議、日々の話し合いなどで、意見を言いやすい環境でもあり、共有もでき、その内容を業務改善につなげることができています。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6		地域の民生委員児童委員の方に評価をいただき、その結果を踏まえて業務改善につなげていけるよう努めています。	より地域とのつながりを持っていただければとのこと意見をいただいております。地域移行や地域支援につながる取り組みを検討していければと考えております。今後も、外部評価の意見を踏まえ、業務の改善に努めてまいります。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		法人内の研修への参加、事業所内研修の実施、こども園との合同研修の開催、外部研修への参加機会を確保しています。また、五臓分析シートを活用し、支援の振り返りやスーパーバイズを行っている。	今後も、職員が法人内外の研修に参加し、支援力の向上、資質の向上を図れるよう取り組んでいきます。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援プログラムを作成し、公表しています。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		アセスメントは職員間での日々の支援の振り返り、話し合いの中から課題や目標を設定し、保護者に関しては日々の送迎時にお話したり、電話相談や面談を行うなど、アセスメントを行って、保護者の困りや悩みの共有、ニーズの把握を行うことを通じて計画を策定しています。	今後も引き続き、アセスメント、モニタリングを通して、課題に対する評価や分析を行い、計画を作成していきます。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		終礼や放デイ会議・職員会議等を行う中で、職員が共通理解のもとで子どもの最善の利益を考慮した検討を行うよう努めています。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		放デイ会議や日々の話し合いの中で、計画の共有をしながら計画に沿った支援を行っています。	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		五歳分析シートの活用といったツールを用いたアセスメントや日々の関わりの中での行動観察を通じたアセスメントを行うことで確認しています。	今後も定期的に取り組み、丁寧なアセスメントをここと崖たいと考えています。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		5領域を踏まえた「本人支援」、「家族支援」「移行支援・地域支援・地域連携」の項目に対して、子ども一人ひとりにあつた、必要な支援目標と支援内容を設定しています。本人の日々の様子や発達の特徴、具体的な関わりを踏まえた具体的な支援内容になるように設定しています。	今後もツールを用いるなど、よりよい計画になるよう改善できる点があれば改善していきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		職員が参加する放デイ会議の中で意見を出し合いながら行っています。月に一度、翌月の内容についてしっかりと話し合いを行いチームで立案に取り組みむことができています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		活動内容は季節に応じた活動や制作、SNSで取り上げられている楽しそうな活動、制作などを取り入れるよう工夫しています。また、こどもの様子や状況、発達を踏まえながら、本人の課題や現状に合わせた活動内容になるよう工夫しています。	いろんな活動のプログラムを知る機会をさらに設けていけるよう、SNSなどの活用や研修参加なども今後も引き続き取り組んでいきたいと考えています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		子どもの特性、発達に配慮した活動を取り入れた計画の作成を行い、支援を行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		支援前（朝礼や午前中）にミーティングを行い、活動内容、個々の対応での留意点や個別対応の必要性のある児童へは担当を決めたり、役割分担を行うなど、職員間で確認をし、チームで連携して支援を行っています。	より細かな打ち合わせを送迎等でうまくできない時があるが、その際は必ず伝達するなど互いに声を掛け合って確認し合うように努めており、今後も取り組んでいきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		職員間で日々の支援の振り返りや気づき、送迎時の保護者からの情報を含め、細かい情報共有を日々丁寧に行っています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		記録の確認係が、その日の利用児と記録があつているかの確認を行っています。記録をきちんととることや振り返りを行うことで、支援の検証、改善につなげています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		半年に1回はモニタリングを行い、計画を見直しを行っていて、必要に応じて計画の変更を行うようになっています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		生活力、表現力、社会性、余暇の充実していけるような活動を取り入れた支援の工夫を行っています。	
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		自己選択できるよう選択肢を設けたりなど自己選択自己決定できるような支援の工夫を行いながら、本人の意思を尊重した支援を行っています。	さらに環境の改善や工夫の余地があると思われるの取り組んでいきたいと考えています。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		管理者・児童発達支援管理責任者や支援の現場でその子どもとの関係ができて職員が会議に参加して情報交換を密に行っています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		利用児が通う地域の小学校や特別支援学校との連携に関しては送迎時の情報交換や訪問支援事業との情報共有を行うことを通じて必要に応じて支援会議を行ったたり、担当者会議での情報共有など連携して支援を行う体制を整えるよう努めています。また、他事業所を併行利用している利用児が多いので、支援会議担当者会議で連携した支援が行えるよう努めています。	医療機関との連携体制をもう少しできるようになればと考えています
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		学校の年間行事や下校時間等に関してはHPから情報収集したり、保護者から連絡をいただいたりして共有しています。送迎等に関する連絡やいつもと違う状況があつた場合は、学校と連絡を取り合つて情報共有に努めています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1	就学前からわくわくかんを利用していただいていたお子さんに関しては情報共有や相互理解は図れています。また、利用していないお子さんについても情報共有できるよう努めています。	利用児が多いため、就学前の利用していた場所はそれぞれ違うこともあり、しっかり把握するのは難しく、中学生や小学校高学年いになると就学前の情報共有が難しくなり、知らないことも多かつたり、職員が変わつたりするので、難しい面はあると思われます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。			対象となる利用児がいません 6	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		わくわくかんが地域の児童発達支援センターなので、常に連携し、助言や研修機会があります。	

携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	0	6		交流の機会がないので、どうい風に交流や活動する機会を持っていか考えいきます
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	4	わからない	自立支援協議会が主催する研修会には積極的に参加するようにしています。今年度から子ども部会に参加できるようになり、園長が部会に参加しています。	今後も研修会等には参加していけるように努めていきたいと考えています。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時や電話等で、日頃の子どもの様子を保護者の方に丁寧に伝えるよう努めており、子どもの発達の状況や課題についても、相談に応じたり面談を行うことを通して共通理解をできるよう努めています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		ペアレントトレーニング等のプログラムなどは行ってはいませんが、「わくわくの会」(保護者の茶話会)を開催し、保護者同士が互いに話し合える機会を設けています。木曜日の午前に保護者同士が集まれる機会を提供しています。	講演会や大分県発達障がい者支援専門員(SV)派遣やペアレントメンターの活用することを通して、保護者支援の充実に取り組みでいければと考えています。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		利用開始時の利用契約書や重要事項説明書の説明をする際に、丁寧な説明を行っています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		子どもの意思の尊重や子どもの最善の利益を優先した観点で、日ごろの子どもの支援を行っています。計画作成する際だけではなく、保護者が相談したいときには即対応できるよう努めており、丁寧に話を聞きながら、保護者の意向を確認する機会を設けています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		計画書を示しながら、5領域を踏まえた本人支援、家族支援、移行支援・地域支援等の項目別に支援内容を作成し、日頃の様子や成長したこと、どのような意図で支援しているかということをつらややすく説明し、保護者から支援計画の同意を得ています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		随時、子育て等の悩みや相談に応じ、必要に応じて支援会議を行ったり、臨床心理士との面談を設ける等行っています。また、モニタリング時にも相談に応じ、助言等含めた支援を行うよう努めています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	6		「わくわくの会」という保護者の茶話会を開催し、保護者同士が互いに話し合える機会を設けています。この会にはきょうだい児も参加できるようにしており、きょうだい同士の交流ができる機会を設けています。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		保護者の方々からの相談は電話でも来所でも対応しており、できる限り迅速に対応しております。また、苦情解決担当者、責任者を設け、掲示をしています。また重要事項説明書でも記載し、第三者委員についても記載しています。もし、苦情等があった場合は迅速に対応していくよう努めます。	
保護者への説明等	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		定期的にわくわくかんだりを発行しています。ほぼ毎月の各曜日の活動予定を話し合いで決め、記録した予定表を持ち帰ったり、配布しています。行事予定についてはコドモンやLINE、紙面で発信しております。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		細心の注意を払い、保護者の方にも個人情報の使用について担当者会議等情報交換など必要なときのみ情報共有させていただくことを解していただくため、同意書をいただいています。また毎日の朝礼で倫理綱領を全職員で読んでいます。その中に守秘義務の遵守があり、意識の徹底ができるよう心掛けています。個人情報がある文書に関してはカギのかかる棚に収納しています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		視覚的にわかりやすいように、文書にしたり写真を見せたり、サインや言葉のモデルを示したり、タイムスケジュール作成する等、情報伝達の配慮を行っており、自分の意思を伝えやすい工夫を行っています。コドモンやLINE、電話など、ICTを駆使しながら、またわくわくの会や保護者会などを通して、保護者の方々の思いや情報など伝えたり受け止められるよう配慮を行っています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4	地域の保育園の先生方を見学やオープンスクールを行うなど、外部の方の見学を受け入れるといった開かれた事業運営を図っています。	利用児が地域の方々とふれあう機会はなかなか持ちにくいので、どういった機会を持っていくのがいいのか検討していきたいと考えています。

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定しており、職員には皆が目をとることができるよう回覧したり、研修等行うことで周知しており、保護者には利用開始時や保護者会等で周知させていただいておりますが、今後も周知できるよう、随時伝えるなどして工夫していきたいと考えています。 また、事業所で事故等（怪我等を含む）が発生した際には、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際状況等について丁寧に説明し対応するよう取り組んでおり、発生を想定した訓練も行っています。	マニュアルに関しては、回覧や伝達等で周知を行い、研修や訓練も行ってはいるが、十分に全員が内容の周知ができてきているかという点で切れてないという意見があるので、みんなが把握していけるよう取り組んでいきたい。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	BCP（業務継続計画）を策定し、事業所内で研修・訓練を年に1回行っております。 非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練を行っています。		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	利用調査票に記入いただき、子どもの状況を確認、把握しています。服薬に関しては看護師が対応しており、子どもの状況が変化した時や服薬が変更したときは連絡をいただいたり、こちらから連絡しております。		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	食物アレルギーのあるお子さんに関しては利用前に医師の指示書をいただいております。看護師・栄養士、職員間で確認し、おやつを提供を行っています。		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練を行っています。日々、危険箇所がないかなどのチェックを行い、月に1回は安全確認のチェックリストでも確認するなど、安全管理を意識して支援を行っています。	それでもけがが起こることはあるので、その都度なぜけがをしたのか、どうすれば防げるのかなど、職員で検証して、より安全に子どもたちが過ごせるよう努めています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	利用時の説明の際や行事での保護者会等で周知を行うようにしています。	なかなか十分な周知が行き届かない面もあるので、工夫していきたいと考えています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	3	ヒヤリハットの事案が起きた時は終礼や朝礼などで周知し、ヒヤリハットの記録も記載し、再発防止に向けて検討を行っており、気を付けなければならないこと、危険だと感じたことの情報共有は出来ていると思われれます。	事業所内で共有はして、再発防止に向けての方策の検討もしてはいるが、再発防止を徹底はなかなかできていないので、再発防止の徹底に向けた取り組みをいければと考えています。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	虐待防止委員会へ設置して、虐待の防止を徹底と職員への研修を行っています。外部の虐待防止に関する研修にも積極的に参加できるよう取り組んでおり、参加後の伝達研修も行っていきます。虐待防止につながる人員配置や支援に対するスーパーバイズなどにも厚く配慮しています。		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	「身体拘束は行わない」という方針のもと、職員の人員配置も基準以上の配置をし、職員に対しての周知の徹底を行い、専門性の向上に努めています。しかしながら、安全上等やむを得ない状況になった際は、行動の制止することがあることを保護者の方に説明させていただいております。			